

## 登録文化財の詳細説明

### 大阪府庁舎 本館について

#### ○名称及び建築年代

おおさかふちやうしや ほんかん  
大阪府庁舎 本館

大正15年（1926）／平成30年改修

以上1件

#### ○所在地

大阪市中央区大手前

#### ○登録基準

基準（二） 造形の規範となっているもの

#### ○建造物の説明

大阪府庁舎 本館は大阪城公園の西に位置し、その正面を大阪城天守閣に向けて建つ、鉄筋コンクリート造、地上6階地下1階建、陸屋根の大規模な建物で、大正15年に建てられました。建物の平面形は、平成25年から平成30年までに東館の耐震等改修・西館撤去を行い、コの字型から、現在議会棟を背面に張り出すコの字型になっています。

外観は、全体の構成を直線を用いて白を基調とした明るいデザインとする一方、玄関ポーチや窓廻りを細密な彫刻で縁取るなど、装飾を正面中央部分に集中させています。簡潔性をベースにしながら装飾性を兼ね合わせたセセッション式の意匠が採用されています。

本建物は現役の本庁舎として使用しており、多くの部屋で内装の更新等を行っています。中央玄関ホール、議場、正庁の間（当時は「正庁」）などは創建当時の姿を残しています。中央玄関ホールは、大理石張りの三層吹抜空間に柱を林立させ、見応えがあります。議場は、壁や天井の装飾が残っています。正庁の間は、部屋一面に黄金のレリーフ装飾を用い、窓や天井にはステンドグラスを嵌めるなど、最も装飾豊潤な部屋となっています。

本建物の設計者は、<sup>ひらばやしきんご</sup>平林金吾と<sup>おかもとたかおる</sup>岡本馨で、のちに平林は名古屋市役所など多くの庁舎建築を手がけています。

以上のように大阪府庁舎 本館は、外観にセセッション式の意匠を取り入れた戦前最大規模の庁舎建築として、登録基準（二）「造形の規範となっているもの」に該当するものと評価されました。

※セセッション式：19世紀末にウィーンを中心に過去の建築様式から「分離」し、新しい造形芸術の創造をめざした革新運動。簡素性と装飾性の共存を志向した意匠が特徴。

※平林金吾（1894-1981）：昭和8年（1933）完成の名古屋市役所は、重要文化財に指定されている。

## 井池織維会館について

### ○名称及び建築年代

井池織維会館

大正11年（1922）／昭和30年（1955）以降改修

以上1件

### ○所在地

大阪市中央区久太郎町

### ○登録基準

基準（一） 国土の歴史的景観に寄与しているもの

### ○建造物の説明

井池織維会館は南船場の織維問屋街にあり、井池筋と久太郎通の交差点に建つ、鉄筋コンクリート造地上3階地下1階建のテナントビルです。

もとは愛国貯金銀行（明治31年に現京都府舞鶴市に設立）の本店として大正11年に建設されたものですが、昭和27年に地元の織維関係者たちが取得し、井池織維会館と改称され、今に至っています。

1階の外壁やかつてのエントランスは撤去されていますが、2・3階の外壁タイルや通りに面した建物の隅を円弧状に収め、屋上境に深い軒を出してデンティルを廻らせているところなど、かつての銀行建築の様相が残されています。

また内部では天井に渡された梁や階段廻り等に当初の意匠を見ることができます。

井池織維会館は、大正時代にさかのぼる銀行建築として貴重であり、戦後用途が変わってからも、織維の街として栄えてきた地域の歴史を今に伝える建築として、基準（一）「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当するとして評価されました。

※デンティル：歯飾りとも言い、突き出した直方体を連続させて、歯が並んだように見える装飾。

## 大阪農林会館ビルについて

### ○名称及び建築年代

おおさかのうりんかいかん  
大阪農林会館ビル

昭和5年（1930）／昭和24年（1949）以降改修

以上1件

### ○所在地

大阪市中央区南船場

### ○登録基準

基準（一） 国土の歴史的景観に寄与しているもの

### ○建造物の説明

大阪農林会館ビルは、南船場中心部の交差点に建つテナントビルです。鉄筋コンクリート造地上5階地下1階建てで、外壁は1階を石張り、2階以上をタイル張りとしています。本建物は昭和5年に旧三菱商事株式会社大阪支店（安堂寺橋ビル）として、現在の三菱地所設計の設計により建てられた、三菱財閥の大阪における拠点といえる建物です。戦後の財閥解体の余波を受けて、売却されることになり、昭和24年からは「大阪農林会館」となり今に至っています。

南西隅に旧正面玄関があり、現在は店舗の入口となっていますが、往時の玄関の重厚な雰囲気を残しています。現在使用されている玄関は北東にあり、階段室を兼ねた玄関ホールには、当初からのメールシュートが残っています。また、2～4階の西壁側にはそれぞれに金庫室があり、商社時代に食堂や厨房のあった5階には、廊下腰壁に陶製タイル、天井に装飾文様を押し出した鉄板天井を見ることができます。

以上のように大阪農林会館ビルは、商社の事務所ビルからテナントビルへ用途が変わっていますが、当初からの外観がよく保たれ、内部にも往時の意匠が多く保存されており、創建時の最先端オフィスビルの雰囲気を感じることができることから、登録基準（一）「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当すると評価されました。

※三菱地所設計：三菱社の設計部門として、明治23（1890）年に、イギリスから建築家ジョサイア・コンドルを招き、東京丸の内一帯を開発するため設けられた「丸ノ内建築所」がはじまり。

※メールシュート：ビルの各階に手紙の投入口を設け、下で集荷できるようにした装置。

## 原田産業大阪本社ビルについて

### ○名称及び建築年代

はら ださんぎょうおおさかほんしゃ  
原田産業大阪本社ビル

昭和3年（1928）／昭和40年（1965）改修

以上1件

### ○所在地

大阪市中央区南船場

### ○登録基準

基準（二）造形の規範になっているもの

### ○建造物の説明

原田産業大阪本社ビルは、南船場の中心部に建つ鉄筋コンクリート造二階建ての建物です。原田産業は大正12年に原田亀太郎によって創業された商社で、創業の同年に発生した関東大震災の教訓から、火災に強い鉄筋コンクリート造の本社ビルの設計を建築家・小笠原 鋤<sup>おがさわらますみ</sup>に依頼したと伝わっています。

通りに面した南側は、腰回りを石張りにし、その上部をモルタル洗出し仕上げとしています。外観デザインは、玄関部分や窓にアーチを用い、1階から2階を貫く大きな窓に柱頭飾りを付けたピラスターを付すなど、古典様式の要素を基本にしながらも装飾過剰になっておらず、均整のとれた特徴的なものになっています。

内部は吹抜け空間に曲線を描く階段を配し、床を大理石のモザイクタイルで縁取ったテラゾーと、日華石の腰壁を用いています。また主要な応接室には床および壁にオーク材を用いるなど、内装には良質な材が使われています。

以上のように原田産業大阪本社ビルは均整のとれた特徴的な外観デザインをもち、内部は質感豊かな空間構成となっていることから、小規模ながら多くの見所があり、登録基準（二）「造形の規範になっているもの」に該当すると評価されました。

※小笠原鋤（1875－1966）：明治31（1898）年に工手学校建築科を卒業後、鉄道院に就職し、東京ステーション・同ホテルの建築時には工事監督を務めた。大正4（1915）年より住友総本店技師として勤務、同9（1920）年には渡邊節の建築事務所に在籍した。翌年には独立して小笠原建築事務所を開設した。

※モルタル洗出し仕上げ：モルタルと種石をこね合わせ、壁面などに塗り付けたのち、硬化直前にワイヤーブラシと水洗いで種石を露出させる仕上げ方法。丈夫で見栄えの良い壁となる。

※日華石：石川県小松市に産する火山礫凝灰岩で黄褐色を呈する。国会議事堂二階廊下などにも用いられる。

※ピラスター：建物の壁面から突出した形で作られる付柱。

※テラゾー：碎石粒とセメントを練り混ぜたものを塗り付け、硬化後に表面を研磨しつや出しして仕上げたもの。床・壁などに用いられる。

## フジカワビルについて

### ○名称及び建築年代

フジカワビル

昭和28年（1953）／昭和44年（1969）・平成28年改修

以上1件

### ○所在地

大阪市中央区瓦町

### ○登録基準

基準（一）国土の歴史的景観に寄与しているもの

### ○建造物の説明

フジカワビルは、堺筋に西面して建つ鉄筋コンクリート造地上5階地下1階建のオフィスビルです。

本建物は昭和28年にフジカワ画廊のギャラリーとして建てられ、1階から2階を吹き抜けとしたギャラリーでは、マネ・モネ・セザンヌら西洋印象派の作品などが紹介され、話題を呼びました。

設計は村野藤吾（村野・森建築事務所）によるもので、フジカワビルは重要文化財に指定されている広島の世界平和記念聖堂（昭和29年）と同時期に建てられた、昭和20年代の村野の代表作といえます。

外観は2階から4階の正面を内窓付ガラスブロック積とし、両サイドに小バルコニーを設けて陰影を演出しています。バルコニーの手摺には「アダムとイヴ」をモチーフにデザインしたと伝わるグリルが設置されています。

内部は階段などの随所に設計者村野のデザインによる繊細な意匠を見ることができます。とくに元ギャラリーであった1階と2階奥室とをつなぐ螺旋階段は、昭和44年の改修時に村野の設計により取り付けられたものですが、鉄板でつくられた側桁とビニル系樹脂製の手摺が美しい曲線を描いています。

以上のようにフジカワビルは小規模なビルですが、単なるオフィスビルではなく画廊であることへの設計者の配慮がうかがえるとともに、堺筋の景観に寄与していることから、登録基準（一）「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当すると評価されました。

※村野藤吾（1891-1984）：早稲田大学建築学科を卒業後、大正7年（1918）に渡辺節建築事務所に入所し、ダイビル本館・綿業会館等の設計に携わる。昭和4年（1929）に独立、村野建築事務所を開設、昭和24年（1949）に村野・森建築事務所と改称した。昭和42年（1967）に文化勲章を受章した。大阪を拠点に活動した現代建築の代表的建築家。

## 小倉家住宅について

### ○名称及び建築年代

小倉家住宅

洋館：昭和7年（1932）

門：昭和7年（1932）

以上2件

### ○所在地

堺市西区浜寺昭和町

### ○登録基準

基準（二）造形の規範になっているもの

### ○建造物の説明

小倉家住宅は、南海本線浜寺公園駅東側の浜寺住宅地に所在しています。

大正8年（1919）頃、本住宅の施主である小倉大四郎が和風木造2階建て住宅付きの当地を購入したと伝わり、昭和7年にその敷地内に今回登録されることになった洋館と門が増築されました。

洋館は鉄筋コンクリート造2階建てで、スペイン瓦や腰壁にスクラッチタイルを用い、2階階段室の窓や玄関アーチには意匠を凝らした個性的な意匠を施すなど、洋風好みであった施主の意向を取り入れたスパニッシュスタイルの上質な洋館建築です。

門は鉄筋コンクリート造で敷地の東辺に建っています。柱等をタイル貼りとしていますが、屋根は銅板葺きで棟に棧瓦を載せ、柱上部に絵様付の腕木を出すなど随所に日本建築の要素が用いられており、和洋折衷の意匠が特徴的です。

設計は大阪市内に事務所を構えた池田谷建築事務所によるもので、建築時の図面が残っています。

以上のように小倉家住宅は、大正から昭和初期にかけて個性的な住宅が次々と建てられた浜寺住宅地において、景観を構成する良質な意匠を持つことから、登録基準（二）「造形の規範になっているもの」に該当すると評価されました。

※池田谷建築事務所：事務所を開設した池田谷久吉は、大阪を中心に活動した建築家、郷土史家。大正9年（1920）に大阪府建築課の技師として採用されたのち、大正15年（1926）に池田谷久吉建築事務所を開設。公共建築や社寺建築などを数多く設計し、岸和田城天守閣や今宮戎神社などが代表作品として知られる。

## 小野家住宅について

### ○名称及び建築年代

小野家住宅

店舗兼主屋：江戸末期／昭和初期・同41年（1966）改修

離れ：江戸末期／平成25年改修

道具蔵：江戸末期／昭和35年（1960）頃改修

以上3件

### ○所在地

大阪府枚方市新町

### ○登録基準

基準（一） 国土の歴史的景観に寄与しているもの

### ○建造物の説明

小野家住宅は、枚方宿<sup>ひらかたしゆく</sup>の旧京街道沿いに位置する旧家で、江戸時代に醤油屋を営み庄屋を務め、明治時代には肥料や種を扱う商売をしていました。

このたび屋敷地に残る歴史的な建造物3件が登録されることになりました。

店舗兼主屋は大規模な町家で、切妻造り棧瓦葺き平入り、つし二階建ての建物です。旧京街道に面した通り側の外観には、揚げ見世<sup>みせ</sup>や半部<sup>はんぶ</sup>、出入口の引込み大戸など、江戸期の町家建築を特徴づける設備がよく残っています。

離れは、主屋の背面側に中庭を挟んで建つ木造平屋建ての建物です。主屋から離れへ通じる渡り廊下は中庭を囲むように繋がり、中庭と一体となって屋敷地の景観を形成しています。

道具蔵は、主屋背面の屋敷地南辺中央に建ち、軒裏を波型に塗り込めた2階建ての土蔵です。

以上のように小野家住宅は、枚方宿に残る大規模な町家であり、旧京街道の景観を形成する貴重な建物群であることから、登録基準（一）「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当すると評価されました。

※揚げ見世：主に関西の町家に見られ、みせの間の正面・軒下において柱外側に軸吊されている縁台のこと。

※半部：上半分を外側へ吊り上げ、下半分をはめ込みとした部戸のこと。

写真



提供：大阪府

写真1 大阪府庁舎本館



写真2 井池織維会館





写真3 大阪農林会館ビル



写真4 原田産業大阪本社ビル



写真5 フジカワビル



写真6 小倉家住宅



提供：枚方市

写真7 小野家住宅